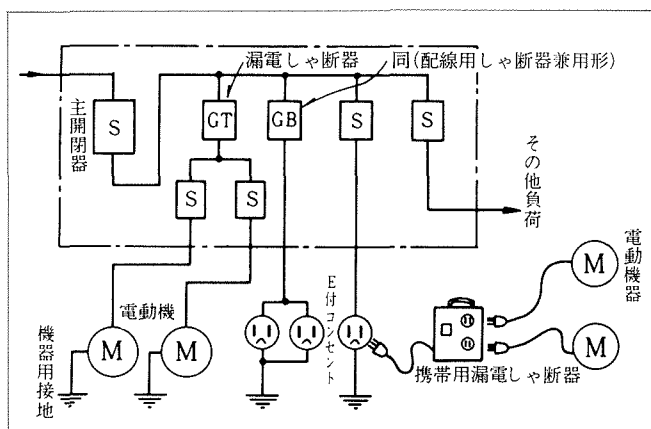


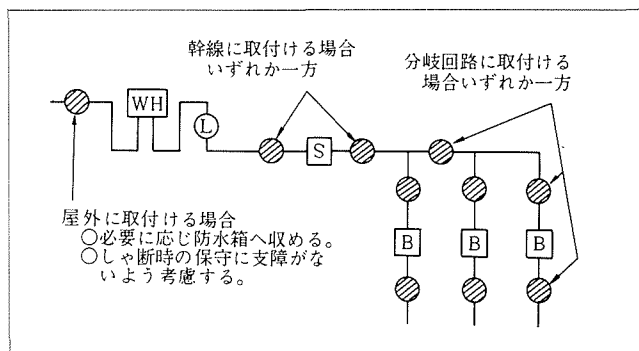
□ 用途と器種

1. 一般に漏洩電流の僅少な住宅や、あまり大規模でない建物では、引込口に近い主回路に漏電しゃ断器を取付けますと、1台で全体を保護することができます。
2. 工事現場や大きな工場などで使用機器が多く、電気配線の長い場合は、常時若干の漏洩電流がありますから主幹開閉器の位置に1台だけ設置することは感度の問題もあり、また動作時には広範囲に停電することになりますので、生産性の上からも良い方法とはいえません。したがって適当なブロックに分けて、漏電しゃ断器を取付けていただくことをおすすめいたします。
3. 使用前(連続使用の場合は月1回程度)テストボタンを押して動作を確認してください。
4. 漏電しゃ断器には漏電しゃ断だけのGT型と、過電流および短絡保護兼用形のGB型とがあります。兼用のGB型は配線用しゃ断器(引込口開閉器)として使用できるため、別にヒューズやしゃ断器を取付ける必要がないので**兼用形のものを推奨**いたします。



- できるだけ鋭敏なものをご使用ください。
8. モータの焼損保護を兼ねる場合は必ずモータ1台毎にその定格電流に見合った容量の漏電しゃ断器をご使用ください。小容量のものについては別にモータブレーカを販売しておりますので漏電しゃ断器と組合せてご使用ください。
 9. しゃ断器の開閉機構は定格電流で10,000回の開閉に耐えられるようになっておりますので手元開閉器としてもさしつかえありません。開閉ひん度の激しい場所では別に手元開閉器の取付けをおすすめいたします。
(漏電しゃ断器には、漏電感電防止用の大切な役目がありますので)
 10. 共同接地線を使用されている場合には漏電しゃ断器を取付けていない機器に地気が生じると、漏電しゃ断器を取付けてある被保護機器のケースにも危険電圧が生じるおそれがありますのでご注意ください。
 11. 非接地式配線の場合(変圧器の2次側接地のない場合)には、コンデンサまたは高抵抗で接地をとる必要があります。
 12. 漏電しゃ断器は両線間の電圧による感電は防止できません。

漏電しゃ断器の設置場所の例



5. 感度電流は定格感度電流値ではいかなる場合もしゃ断するように定められていますので、実際にはその値より若干鋭敏な電流値で動作いたします。ただし定格不動作電流値以下では、いかなる場合も動作いたしません。
6. 増幅制御部はウレタンモールドにより防じん、防湿構造となっていますが、しゃ断器には可動機構がありますので、湿気やじん埃の多い場所、腐食性や爆発性ガスのある場所、海岸など特殊使用場所、では防護装置を必要といたします。
(電気設備技術基準による)
7. 単相用の負荷には一般に直接手で持って使用する可搬形の機器(モータドリルなど)が多くてアースがはずれやすく危険性も多いと考えられ、また常時の漏洩電流も三相200Vの場合より少ないと考えられますので、弊社では単相用漏電しゃ断器の定格感度電流の標準を15mAおよび30mAの2種類としております。感電した場合のショックによる転倒などの2次的災害も考えられますので、感度は、